

# 東照宮へ、ロマネスク日光街道⑤粕壁宿～杉戸宿

日時：2023年1月28日（土） 天候：晴 歩数：21000歩 距離：14km

集合：東武伊勢崎線春日部駅10時00分

コース：春日部駅→粕壁神明社→古利根川公園橋→碓神社→旧日光街道→粕壁宿本陣跡→山中観音堂→永嶋庄兵衛商店→浜島家住宅土蔵→最勝院→成就院→春日部八幡神社→春日部稻荷大明神→八幡公園→高札場跡→小淵一里塚跡→小淵山観音院→杉戸町→36度線モニュメント→九品寺→三本木一里塚跡→来迎院→杉戸宿高札場→近津神社→東武動物公園駅

参加者：熊坂(L) 奥村(SL) 勅使河原 吉越 五十嵐志 平石 高橋文 奈良 清水 市村 高橋友  
脇坂 鹿島 山口 篠 計15人

「東照宮へ、ロマネスク日光街道」5回目は、日本橋から4番目の粕壁宿から5番目の杉戸宿まで歩きます。1月22日が二十四節気の大寒、ここから2月4日の立春までの約半月が1年の中で最も寒い時期になるといわれています。日本列島は25日からこの冬一番の寒気が流れ込み、北日本から西日本の日本海側を中心に大雪が降って交通機関に大きな影響が出ました。そんな寒さがまだ残る28日、さいたま市の最低気温は氷点下1.7℃、最高気温は7.3℃。春日部駅に15人の参加者が集まりました。

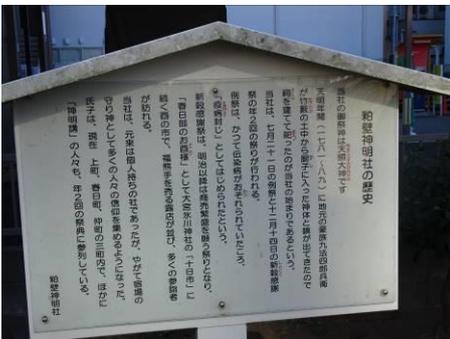
この時期にくみ上げられる水は「寒の水」と呼ばれ、雑菌が少なく薬になるといわれています。この水を使って醤油や味噌、日本酒を仕込むことを「寒仕込み」と言います。今回のコースで地酒が購入できること、寒さもなんのその楽しみをもってスタートです。



春日部八幡神社

## 高架化工事中の春日部駅 10時10分～粕壁神明社 几号(きごう)水準点

東海道線、常磐線、東武スカイツリーラインと乗り継ぎ、9時17分に春日部駅着。日影に入るとかなりの寒さです。駅舎に「鉄道の高架化が始まります」の看板が出ています。春日部駅は、1899年（明治32年）8月27日に東武鉄道の開業と同時に粕壁駅として開業。東武スカイツリーラインとアーバンパークラインの接続駅で乗り換え客を含めた1日利用者は13万人で混雑し、市街地を東西に分断、このような状況解消のための工事です。集合までの時間を利用して春日部情報館の「ぷらっとかすかべ」を見学して駅に戻りました。参加者がそろい、熊坂リーダーがコース説明をして10時10分にスタート。最初に訪れたのは粕壁神明社、説明板に「地元の豪族九法四郎兵衛が開墾したところ、土中から厨子に入った神体と鏡が出てきたので祠をたてて祀ったのが始まり」と書かれていました。本殿の裏でみんなが捜しているのは几号(きごう)水準点、これは明治初期に高低測量を行うために設けた基準となる測量点で、漢字の「不」に似た几号が刻印されています。境内でストレッチをしてスタート、神社前の家に「神楽」という表札がありました。



## 古利根川公園橋～碓神社～旧日光街道～粕壁宿本陣跡～道しるべの石柱

北東方向へ少し歩いて利根川水系中川の支流、大落古利根川（おおおとしふるとねがわ）に架かる古利根川公園橋へ。県鳥シラコバトをデザインした風見鶏に麦わら帽子をイメージしたアーチ、光と風をテーマにした全長79mの公園橋です。少し下流へ進み、碓神社へ。江戸時代には粕壁宿の船着き場の目印になっていたといわれる、樹齢600年のイヌグスクが健在でした。旧日光街道のかすかべ大通りに出て北西方向へ進むと粕壁宿本陣跡の標柱がありました。商家の蔵と趣のある商家があり、その前の道しるべの石柱に刻まれた文字を、みなさんが判読中。日光・いわき・江戸の三方面の方角が刻まれています。



## 山中観音堂～旧日光街道～永嶋庄兵衛商店～浜島家住宅土蔵～最勝院

道しるべを見て旧日光街道かすかべ大通りを直進。左の道に入り、江戸時代の俳人増田眠牛を吊って建てられた山中観音堂を見学。かすかべ大通りへ戻ります。レトロな造りの街路灯をパチリ、この通りや駅前近くの大通りは電柱が地中化されていて青空が映えます。右手に永嶋庄兵衛商店、ここは粕壁宿の入口、屋根の上に守り神の鍾馗様が見えます。隣は浜島家住宅土蔵、「濱」の文字が刻まれています。旧日光街道はこの交差点を右に曲がりますが、直進して最勝院へ入ります。境内を進むと本堂の脇に、南北朝時代に春日部を治めた武将・春日部重行の墓とされる塚があります。塚の上にはシイノキの巨木が立っていました。



## 成就院 見川喜蔵の墓～春日部八幡神社～春日部稲荷大明神～八幡公園

最勝院を出て隣の成就院へ。江戸時代に粕壁宿の宿役人を務め、難民救済に尽力し、古利根川が決壊すると自費で堤防を強化した見川喜蔵の墓と見川家の五輪塔を参拝。成就院を出て西方向へ進みます。東武スカイツリー線の踏切を渡り幹線道路に出ると緑の木々に覆われた一帯が見えてきました。11時45分、春日部重行が崇敬する鎌倉鶴岡八幡宮の遥拝所として建立した春日部八幡神社へ着きました。本殿前で集合写真を撮り小休憩。「春日部稲荷大明神」の赤い幟の間を進み、春日部稲荷大明神を参拝して八幡公園へ下りました。時刻は12時10分、広い公園の日当たりの良いベンチをさがして昼食タイムです。



## 八幡公園 12時40分～高札場跡～小淵一里塚跡～小淵山観音院 健脚祈願

公園一角の梅の花が咲き始めています。12時40分に午後のスタート、15分ほど歩いて、浜島家住宅土蔵のある四つ角まで戻りました。ここには高札場跡の標柱があり、再び旧日光街道を歩きます。上喜蔵河岸跡の標柱を通過、北風が冷たく吹く新町橋を渡ります。ここからは街道を北進、15分ほど進むと小淵一里塚跡の新旧標柱。少し先に道しるべがあり、「左日光道」の文字が読み取れました。国道4号と合流して「東京から37km」の標柱を過ぎ、小淵山観音院へ到着。一同が関心を持ったのは参道脇、「健脚祈願」の役の行者南無神変大菩薩。「ウォーキングクラブのための菩薩ね」と声があり、熊坂さんが参拝。



## 杉戸町～36度線モニュメント～九品寺～三本木一里塚跡～鍾馗様発見

ここからは国道4号と旧日光街道を出たり入ったりして北上、歩行ピッチも少し上がったようで身体が温かくなってきました。杉戸町に入ります。石球の地球儀があり、みなさん指さして話しています。説明板に「地球儀は北緯36度線モニュメント、36度線上の都市に中国青島、ラスベガス、テヘランなどがある」と書かれていました。13時55分に九品寺へ到着。日光街道の道しるべがあり、ここにも几号水準点の「不」が刻まれていました。ひたすら歩き、コンビニで小休憩。三本木一里塚跡へ、塚は取り払われていて説明板のみです。旧家の屋根の上に鍾馗様発見、どうやらここらあたりが杉戸宿の入口だったようです。



## 来迎院 十三仏様～伏見屋 地酒「杉戸宿」「清地村」～杉戸宿高札場

趣のある暖簾がかかっている酒店がありました。残念ながら「9月30日で閉店」の貼り紙が出ていました。街道を右に曲るとお寺の長い塀、時刻は15時、影が大分長くなりました。来迎院に入ります。広い境内の一角に不動明王、釈迦如来、文殊菩薩などの十三仏様が祀られていました。再び街道に出て杉戸宿高札場の広場へ、ここで小休憩する人と酒店、煎餅屋で買い物をする人に分かれしました。私は伏見屋酒店へ入って地酒の杉戸宿と清地村を購入。店内に日光街道御宿場印帳が展示されていました。高札場は、復元された現在地より北へ500mのところに立てられていて幕府法令などが墨書されていました。



## 近津神社～16時 東武動物公園駅 歩数2万1000歩 距離14km

氏子の方が社殿を清掃中の近津神社を参拝、境内に富士塚がありました。日影のところに氷が張っていて、ここ数日間の寒さを改めて実感。境内の隅をかりて入念にクールダウン、街道に出てケーキも売っている和菓子屋さんに立ち寄りしました。本陣跡地前交差点を左折、杉戸宿石柱と杉戸宿まちあるき案内板があり、杉戸宿の絵地図で本陣跡は交差点の北側にあったことが分かりました。3時間ぶりに大落古利根川の上流へ、川幅は大分狭くなっています。古川橋を渡り16時、東武動物公園駅に着きました。歩数2万1000歩、距離14kmの「日光街道⑤粕壁宿～杉戸宿」でした。



## 追悼

### 青松さん 同じ時代を生き 一緒に歩けたこと楽しかったです ありがとうございます

会員の青松秀雄さんが1月10日に逝去されました。享年78歳でした

最後にウォーキングを一緒に歩いたのは、11月26日の「東照宮へ、ロマネスク日光街道④（北越谷駅～春日部駅）。足どりゆっくりで、常に遅れ気味でしたが一生懸命付いてきていました。アフターにも参加、私の前の席に座り楽しく談笑しました。歩いているときの会話で「12月に入ったら透析準備のための手術で入院する」と話されていました。「それでは、今年の青松グループの忘年会は見送りですね、お大事に」と話しました。ところが12月24日、青松さんから「市村さん、忘年会を行うよ」と電話が入りました。

12月29日夜、毎年行っている川崎の焼き肉店に8人（青松さん、志村さん、平林さん、山本さん、宮野さん、加納さん、岩元さん、市村）が集まり、飲んで食べて楽しく懇親しました。透析が始まるのは1月中旬とのことでしたので「1月14日の鎌倉七福神めぐりは、距離10kmと短いのでみんなで参加しよう。疲れたら途中の鎌倉駅近くの居酒屋で飲んで待っていてください」と呼びかけ、みんなで参加することを約束しました。往年の食べっぷりではなくお酒の量も少なかったような気がしましたが、いつものように穏やかな表情でみなさんの話を聞いていました。「来年も忘年会を開きましょう」と声をかけたら「来年はできるかな、今年が最後かな・・・」とつぶやくように返事をしたのが耳に残っています。

1月14日の伝助が中々〇にならずに気になっていたとき、1月13日に宮野さんから訃報の電話を受けました。鎌倉七福神には、退会した志村さんも参加。ウォーキング中にも青松さんのことがあちこちで話されました。昼休憩のときに、吉越会長が参加者に「残念なお知らせです。青松秀雄さんが1月10日に亡くなりました」と報告されました。

1月19日に通夜が行われ、運営委員のみなさん等と参列。「いい日旅立ち」の演奏が行われる中、青松さんと最後のお別れをしてきました。

私が神奈川ウォーキングクラブ入会してすぐから、青松さんには親しくしていただき思い出は語りつくせないほどあります。人とは出会いがあり別れがあると分かっているにもかかわらず、突然の別れに気持ちの整理ができません。今回の「日光街道⑤」にも歩く予定だったと思います。熊坂リーダーが「青松さんの写真をもって日光まで一緒に歩く」と、この日も写真を持参。写真と地酒で青松さんを偲び献杯です。

青松さん、同じ時代を生き、一緒に歩けたこと楽しかったです。ありがとうございました。



(いちむら記)